

単孔式LECS

KKR斗南病院 鏡視下手術センター 北城秀司
同外科 奥芝俊一、大久保哲之、川原田陽、川田将也、小野田貴信、
同消化器科 住吉徹哉、近藤 仁

単孔式手術は、整容性の点で患者に喜ばれることより様々な臓器で手術適応が拡大されている。当院では、胃粘膜下腫瘍に対して単孔式 LECS(T-LECS)を積極的に導入している。単孔式手術の問題点として臍部単孔創から各種デバイスを挿入するため臍から遠い位置での操作の際に Triangulation が失われ手術パフォーマンスが低下すると言われている。胃粘膜下腫瘍は、ECJ 付近に発生することが多く臍部創から遠い部位での手術操作となる。Prebend 鉗子を用いることで鉗子先端の視認性が良好となりまた手元の干渉が無く単孔の環境でもパフォーマンスの低下無く手術可能であった。今回はフレキシブルトロッカーと Prebend 鉗子を用いた T-LECS を紹介する。